

6. まとめ

既往の研究成果やシミュレーションモデルを活用することにより、河川管理者が現場において化学物質漏洩に対処するための管理法の考え方の枠組を提案し、土壌・地下水汚染対応マップの作成およびその活用法の提案を行った。

重大な影響をおよぼすおそれがある化学物質の漏洩による地下水・伏流水を通じた公共用水域の汚染に関して、予防的措置や危機管理を現場で行う系統だった手法は今までなかったが、対処方法の考え方を整理し、土壌・地下水汚染対応マップを作成したことにより、現場での対処方法の提案をした意義は大きい。

本研究において作成したマップは、PRTR 等のデータと組み合わせて、現場において重点的に監視すべきエリアを設定したり、漏洩発見時に汚染源や汚染範囲を特定したりすることに活用することができる。

今後は、マップ作成法やこれを用いた管理の考え方・枠組案を河川管理者や水質汚濁対策連絡協議会、自治体の関係部局に紹介し、活用を図るなど、本研究成果の活用方法についてさらなる検討を行っていきたい。